

会議記録

会議名称	第6回 杉並区教育ビジョン策定委員会
日時	平成24年3月21日(水) 午後4時30分～午後5時18分
場所	教育委員会室
出席者	<p>委員 永井、坂野、清水、大浦、鈴木、神谷、野口、藤川、中島、秋山、松浦</p> <p>区側 教育長、参事(特命事項担当)、庶務課長、統括指導主事、教育改革推進課長、 学校適正配置担当課長、学務課長、社会教育スポーツ課長、 済美教育センター副所長、教育支援担当課長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
配布資料	<p>1 パブリックコメントによる意見の概要と対応案</p> <p>2 修正箇所一覧</p> <p>3 修正後の教育ビジョン2012(案)</p>
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 資料説明</p> <p>3 意見交換等</p> <p>4 今後の予定</p> <p>5 委員挨拶・感想</p> <p>6 教育長挨拶</p> <p>7 閉会</p>

○委員長 時間となりましたので、始めたいと思います。

ただいまから、第6回杉並区教育ビジョン策定委員会を開催いたします。委員の出席状況について、事務局からお願いします。

○庶務課長 秋山委員から、遅れてくるという連絡をいただいています。それから教育委員会事務局の吉田次長と玉山済美教育センター所長が、所用で遅れます。よろしくお願いします。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、事務局から、議事録及び本日の配布資料などにつきまして、説明をお願いいたします。

○庶務課長 それでは、私から議事録と配布資料の説明をさせていただきます。

まず、議事録ですが、これについては、昨年12月9日に各委員の皆様方から最終確認をいただき、ホームページに既に掲載をさせていただいております。

それから、今日の配布資料ですが、まず資料1につきましては、12月21日から実施しましたパブリックコメントでいただいた意見をもとにしまして、事務局と委員長、職務代理と考え方を整理したものでございます。このうち、黒く網かけになっている部分は修正をしている部分でして、これについては、資料2で抽出して詳しく掲載をしています。

そして、資料3につきましては、これらを踏まえて修正したものを、今回ご用意しました。教育ビジョン2012の最終案ということです。

進行は、これ以降につきましては、委員長にお任せをしたいと存じます。本日、最終案を確定いただきますよう、よろしくどうぞお願いいたします。

○委員長 今回が最後です。いろいろとありがとうございました。

ざっと1年間にわたって検討してきたわけですが、ただいま事務局からもお話がありましたように、本日はこの委員会といたしまして、先ほどのパブリックコメントを踏まえた上での教育ビジョン2012（案）を確定したいと、考えております。

パブリックコメントでいただいたご意見、これにつきましては、私あるいは坂野先生、加えて事務局との間で検討を加え、その結果をさらに皆さんからもご意見をいただき、それらをまとめたのが、お手元の資料です。

その後、本日に至るまでメール等のやりとりの中で、概ね私ども委員の皆さん方の間で合意が得られているものと思いますけれども、いかがでしょうか。

繰り返しになりますけれども、本日が最後の策定委員会でございますので、議論のできる最終の場ということになります。そのため、どのようなご意見をお持ちかということについても、お伺いしたいと思います。

ただ、この委員会の一番最後に、ざっと1年間を振り返ってのご感想を全員に述べていただく

という場面を設定いたしますので、そのあたりのことは後ほど伺いすることといたしまして、でき上がった教育ビジョン2012（案）に関連してご意見がおありでしたら、どうぞおっしゃってください。

どなたかございますか。

なさそうですね。メールのやりとりがかなり綿密に行われているので、そのことが効果を発揮したのかもしれませんが。

まだ、お見えになっていない委員もいらっしゃいますが。

○庶務課長 特段意見をいただいていませんので、大丈夫だと思います。

○委員長 そうですか、はい、ありがとうございます。

それでは、最終的な案といたしまして、お手元にある資料3、杉並区教育ビジョン2012（案）は、この形でよろしゅうございましょうか。

はい、ありがとうございます。

それでは、本委員会といたしましては、これを教育ビジョン2012（案）といたしたいと思えます。皆さん、本当に長い間、どうもありがとうございました。

滞りなくどんどんと進んでいるわけですが、スタートラインは今年の5月でしたか。そうでしたね。ざっと1年ですけれども、まとまりましたので、策定委員会を代表いたしまして、私から教育長にお渡しをしたいと思えます。よろしく願います。

杉並区教育ビジョン2012（案）がまとまりましたので、お渡しいたします。

（ビジョン案 手交）

○教育長 ありがとうございます。

○委員長 滞りなくお渡しすることができました。ありがとうございます。

このように策定いたしました教育ビジョンの案が今後どういう形で流れていくのかにつきましては、やはり私どもは、関心を持たざるを得ないわけですが、今後の流れにつきまして、事務局からご説明いただけるでしょうか。

○庶務課長 私から、今後の流れにつきまして、ご説明をさせていただきます。

本日、ご確定をいただきました最終案でございますけれども、来週の3月28日に教育委員会の定例会がございます。こちらに諮りまして、教育委員会決定が得られれば、若干レイアウト等を検討しまして、早速、印刷作業に入らせていただきます。それから、文教委員会に教育ビジョン2012の内容について報告をします。

その後、5月中には印刷した物を仕上げたいと思っていますので、委員の皆様方、それから各学校、教育関連施設等にお送りすることができるかと思えます。

また、それに先立ちまして「広報すぎなみ」4月11日号に今回のビジョンの決定の記事を出す

とともに、教育報特集号で教育ビジョンを掲載したものを5月中に発行する予定です。

それから、ビジョン本体とは別に配布版というか、リーフレットも作成しまして、なるべく多くの方に今回の教育ビジョンを知っていただきたいということで、広く周知に努めてまいりたいというふうに考えています。

予定は以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。レイアウト等の修正を加えるとおっしゃいましたが、イメージとしては、現行のビジョン案と同じようなスタイルのもの、カラーでできるというふうに考えてよろしいのでしょうか。

○庶務課長 少しレイアウトは考えてみたいと思っています。また、案の段階で委員長と職務代理にはそういうご相談をさせていただきたいと思います。

○委員長 期待をしております。どうぞよろしくお願いします。

皆様のおかげを持ちまして、これで本策定委員会としての役割は無事、滞りなく終了いたしました。そこで、先ほどお約束したとおり、皆さん方から感想であるとか、今後に向けた要望であるとか、そういうようなことをあわせてお伺いしたいと思いますが、1分、2分、長くて3分ぐらいのところでお話しいただければと思います。

さて、どのようにしましょうかね。

○職務代理者 こちらからいったほうが、多分。

○委員長 私の左手からお願いできますでしょうか。

○委員 ありがとうございます。第1回目のときにやはり最初にマイクを渡されて、どきどきしたような覚えがあります。

高井戸西幼稚園の副園長ですが、先週、子どもたちが卒園しました。これから1年生になるんだと、すごく輝いた喜びにあふれる笑顔で巣立っていきました。この教育ビジョン1年目に1年生になる子どもたち、これから小学校、中学校と杉並の中で育っていく子どもたち。この教育ビジョンの中で育つのかなと思って、大変うれしく思ったり、期待したりしています。

今後、就学前教育を行う施設としては、この教育ビジョンの目指す人間像に向かって、芽生えを培うという部分で力を発揮できたらと思っています。

本当に皆様、ありがとうございました。（拍手）

○委員 どうもありがとうございました。私もこちらの会でいろいろと意見を言わせていただいて、大変勉強させていただきました。ありがとうございます。

やはり新しい公共をどのような形で具体的に教育の中に生かしていけるのかということ、なかなか考えても、その姿というのはすぐには出てこないんですね。だけど、やはりこういう大きなうねりがあって、じゃ、どうするのという形になっていくと思いますので、現場では、私は小

学校の代表で来ていますが、私はやはり小学校教育の中で、じゃ、実施計画になってきた具体的なものをどう各学校が紹介していくのかということを考えていかななくてはいけないだろうというふうに思いました。

この計画というのは、今年初めて教育ビジョンとして出たわけではないというところが、やはり杉並のカラーだろうと思うんですね。これまでの10年があって、そして他の地域には類を見ない地域との結びつきを持った学校、そして学校を拠点とするさまざまな社会教育体系があるからこういうような次の計画が出てきているんだということを私たちは、やはりもう一度確認をする必要があるなど、そんなふうに思いました。

どうもありがとうございました。（拍手）

○委員 5月からいろいろとお世話になり、また勉強させていただいてありがとうございました。

私は特別支援教育を代表する立場なのかなと思いましたがけれども、やはりこの教育ビジョンが策定される経過で、特別な支援を必要とするお子さんも、そうでないお子さんも目指すところは一緒で、大事なことはやはり生きる力を育むということだということを改めてこの教育ビジョンで確認できたということはとてもよかったのではないかと考えています。

先般、杉並夜間塾というところで教育ビジョンと特別支援ということでお話をいたしましたけれども、やはりそこには、教育ビジョンの中にはそういう子どもたちの生きる力の育成もちゃんと位置づけられていて、それはどの子どもとも変わりありません。ただ、切り口、それからアプローチの仕方が違うだけということです。

それから、もう一つは、これは言葉が未成熟ということで、インクルーシブというところは今回なくなりましたがけれども、でも、この教育ビジョンの中に十分私は生かされていると思っています。特に、ここで持続可能な社会という言葉は、この委員会で私は初めて出会いまして、少し自分なりにもいろいろと勉強したんですけども、その中でこの資料1の3ページにもあるんですが、「『持続可能な社会』とは、地球環境や資源のほか、人々の心豊かで健全なよりよい社会を持続・発展していく」と。こういう中にやはりインクルージョンというか、どの人も排除しない社会ということがやはり含まれるのだと思いますし、東日本大震災ということを考えれば、なおさらこれが大きく強調される。だから、特別支援教育というのは学校からの発信だけでなく、地域の持続可能な社会、インクルーシブな社会をつくっていくという側面からの発信がこの教育ビジョンを通してより広がればよいなというふうに思っております。

本当にいろいろとありがとうございました。（拍手）

○委員 5月から大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

私は今回、一区民としてこの委員会に応募させていただいて、参加させていただきました。基本的に、本当に私自身が学ぶことが非常に多くて、とってもいい経験になりました。今までは、

こういったものがつくられていることすら知らずにただただ生きていたんですけども、この背景にはすごく大きないろんな人たちの思いが詰まっているということが今回、本当にわかりましたし、私としてはそれを自分の周りの人たちにやっぱり伝えていきたいなという思いがすごく強いんです。

今回もツイッターやSNS、フェイスブックなどで、こういった委員会をやっているんだよということや、杉並区はこういうふうにして今後の杉並の教育についてみんなで考えているんだよということを発信するようにして、周りの人たちも主体的にどんどんかかわってもらえるような声かけをさせていただきました。その中で、やっぱり私たちの世代、20代、30代といったところで、今までは全く興味のなかった人たちが、あっ、そういうことをやっているんだ。じゃ、ちょっと見てみようかなというふうに興味を持ってくれたりしたことは、すごく大きなことだと思います。

なので、今後も引き続き杉並区の教育について私もどんどんかかわらせていただいて、そういった中でいろんな人を巻き込むような、自分も杉並の教育をつくる一員なんだよということを見んなにわかってもらえるような活動を続けていきたいと思っております。

本当にいろいろありがとうございました。（拍手）

○委員 ○○委員の立派なご意見の後で、とても緊張しておりますが、私も一保護者としてこちらに参加させていただきました。お役に立てたような思いはないのですが、とても勉強させていただき、また、こういった場になかなかいられるものではないので、本当に自分にとって貴重な1年間でした。ありがとうございました。

あさって、うちの息子は小学校を卒業して、そう話しているだけでちょっと感極まっていますが、すみません。卒業しまして、区立の杉並区内の中学校に進むわけですが、今回この教育ビジョンに、私も参加させていただいていたということもあるんですが、杉並区で教育を受けられることに誇りを持って今後も子どもにもそう伝えつつ、また微力ではありますがこういった形で杉並区は教育を考えているんだよということを、保護者に伝えていければいいかなと思っております。本当にありがとうございました。（拍手）

○委員 杉並区の区立中学校の保護者を代表させていただきました、協議会として出させていただきました。

本当にいろいろ勉強させていただきました。パブリックコメントをたくさん見ているうちにさまざま方がさまざまな視点で、いろんなことを考えているなど。そしてまた、頂いた意見を大事に修正していく中で、すべてを否定するのではなくて包み込むように修正し、余計なことを語らず、含ませて言葉にするという委員会の力量は、素晴らしいなど。何か杉並のレベルの高さを感じさせていただいたなというふうに思っております。

ただ、ビジョンをつくっている段階と今とでは、1年の時がたっております。この案の最初の言葉の中にあります、「絆」という言葉の価値や意味合いが少し変わってきているような気がします。この10年見据えた中で風化させずにその言葉をもっと新たな力として、いい言葉になるように、一人の親として、一人の人間として、生きられたらなというふうに思っております。どうもありがとうございました。（拍手）

○委員 小学校の保護者を代表してこの会に参加させていただきましたことを、本当に心から感謝しております。まさにこの、今6ページの図を見ていまして子どもをこの真ん中に入れていただけて、学校、家庭、地域、行政の皆様に支えられているんだなというのがこれを見て、本当に感謝の一言です。

私、本当にいろんな委員会に出させていただいて、こちらの委員会でほとんどお役に立っていないかと思うんですが、さまざまな委員会に出た中で、この委員会に出るのが一番の楽しみでした。

ただ、残念なのは、いろいろな委員会で皆さんすばらしいことされているのに、横のつながりが余りなくて、その委員会でやっていることがほかに知られていないことで、こっちでやっていることとこっちでやっていることがちょっと矛盾していたりとか、そういったことがありました。せっかくのそういう委員会をすべてをつなぐのが割とこのビジョンがトップにきてつながっていくんじゃないかなという気がいたしましたので、そういったところを私たちが伝えていくことも大事なんですけれども、教育委員会の皆様にも学校の皆様にもぜひビジョンを通してつながっていくんだよという理解をしていただけるように周知していただければなと思うんです。

あとは、1回目の委員会のときにもとても副校長先生が忙しいとか、先生が忙しいのを見ていて大変だなと思っているということをお話したんですが、やはりいまだにそうで、その現場の先生方の声がどれだけ反映されて、拾ってというところも大事かなと思ひまして。このビジョンが校長先生からその先生方に皆さん浸透していただけて、それが保護者にも伝わってという、これからの推進計画にもかかわるのかなと思うんですが、やっぱり、せっかくつくったのをだれも知られないというのはすごくもったいないので、これをいかに広げていただけてかなというところかなと今、思っています。

校長先生が替わると職員室の雰囲気が変わってしまうことを何度か見ましたので、それはいい方向に変わっていくのはすごく素晴らしいんですが、悪くなる時が時々あったりすると本当に残念なので、それも含めて、きっとビジョンにすごくいいことを書かれていますので、ぜひ先生方も読んでいただけて、校長先生に左右されない職員室の現場からの発信をしていただけたらと思っています。

それに保護者がどれだけお手伝いできるかなということが、私がここにかかわって大事だった

など思ったことでした。どうもありがとうございました。（拍手）

○委員 1年間、一生懸命育てた子どもが今日巣立っていったのかなという、ちょっと寂しいような気持ちもしながら、でも、今日私たちの手から巣立っていったこのビジョンが、これからどんどん成長していった、10年間かけて目指すところに向かっていってこれればいいなというふうに願っています。

私は青少年委員協議会からこの会に参加させていただきまして、青少年委員というのは地域と家庭と学校をつなぐパイプ役なんだよということは重々わかって活動してきたつもりですけども、今年度この会に参加させていただいたことによって、より一層、地域と学校、地域と家庭をつないでいる要のところに青少年委員っていさせていただいていると、とても強く強く感じました。

この思いを、私どもの協議会にも伝えたいと思って1年間、一生懸命努力してきたつもりですが、まだまだきっと足りないところはあると思います。また、これから先、このビジョンを通して青少年委員もますます成長していけるように伝えていかなければという思いを新たにしています。

個人的には、この1年間、とても素晴らしい委員の皆様方とお知り合いになることができ、そして毎回毎回の委員会、とてもわくわくする気持ちで本当に楽しく参加させていただきました。素晴らしい経験をさせていただいた1年だったと思っています。本当に皆様ありがとうございました。（拍手）

○職務代理者 どうも皆さん、1年間お疲れさまでした。

こうした取りまとめみたいなことやらせていただくのは、実は私は神奈川県で前に一度やっていますので、今回で2回目になります。前回も感じたことですが、余り細かく書いてしまうと、10年間という長いスパンですから、その後の政策を縛ってしまうことになります。では、どれぐらい抽象的に書きますかと言って、抽象的になり過ぎると何が言いたいのがわからないという話になって、恐らく皆さんもそれをお感じになられたと思うんですよ。そうしたところのバランスの上で実は成り立っているということを、これだけ多くの人の中で共有できたということは、非常に意味のあったことではないかなというのが、まず1点です。

次に、流行と不易というのが、私は言葉として非常に好きなんです。先ほど、〇〇委員からご意見と申しますか、感想がありましたけれども、当初に比べてという言い方がございましたけれども、じゃ、その中で不易として残っていく部分って何だろうねということがこの中でちゃんと入っていなければ、実は、やっていた意味が余りないんですね。それは間違いなく、この中に私は入っていると考えております。

ただ、同時に杉並区といういわゆる区市町村のレベルで今回これを策定させていただいたわけ

ですけれども、ある意味で言うと住民の方たちに一番近いところでこれを行っているということになります。地域が非常に弱っているところからすると、例えば学校と一緒に何かをといて、できないところというのも実はかなりございます。そうしたことは、杉並区ではまだ非常に少ないと思います。ということは、やればできるという可能性が非常に高い自治体であると考えてよいと思うんですね。

それは、まさに住んでいらっしゃる住民の方たちの意識の恐らく高さということだと思います。まさにそうしたところの中で、これをあとどうやって色をつけていくのかな、あるいは実際にそれが実施に移されていくのかなということが、今後10年間あるわけですけれども、その中でこれはある程度、極端な言い方をしますけれども、区長さんが替わられても教育委員さんが替わられても、不易的な中身になっていると思います。と同時に、ここでは想定していなかったことがこの10年の中で恐らく出てくると思います。そのことについても、ある意味で言うと、この部分とかかわるよねという形では、うまくまとめることはできたかなと思います。

先ほど、〇〇委員からもあったんですけれども、恐らく特別支援教育は、ここ10年ぐらいの中で急速に広がると思うんですね。その点について、いわゆるインテグレーションからインクルージョンに今は中身が変わってきていますけれども、じゃ、インクルージョンの中身というのはどれぐらいここに入っているかということ、正直言って、それほど強くはないと思っています。恐らくそれは、どの程度進むかによって解釈を変えていく必要が当然あると思うんですね。

ただ、そのもとになる部分というのは、この中にしっかり入っているというふうに思いますので、逆に、恐らく5年ぐらいたったところでもう一度これでいいかねということでも多分見直しが入るかと思うんですけれども、その部分については、国の施策の部分ともかかわった上でどれぐらいのことが書けるのかということも決まってくるかと思しますので、向こう5年間ぐらいはこれで大丈夫じゃないかなと勝手に自負しております。

こうしたことをまとめるときにまさに、先ほどありましたけれども、意見の違う方たちがたくさんおられます。ちょうど、今読んでいる本が「分裂するアメリカ」という本なんですけれども、これは従来のいわゆる2大政党制では合わない人たちがいっぱい出てきているよねというのがアメリカの例で書かれているわけですけれども、恐らく日本もさまざまな意見を持つ方たちが今後増えていく。要するに、この目的では一緒だけれども、違う目的になったら意見を異にするという人たちが多分、かなり多くいらっしゃるはずなんです。それを、取り込む形でまとめることがうまくできたのではないかなと自分で思っております。

こうしたことに参画をさせていただけた者として、区民じゃないにもかかわらず参画できたということに非常にうれしく思っております。どうもありがとうございました。(拍手)

○委員長 私も坂野先生同様、区民ではない立場からこの会に参画をさせていただきまして、大

変にやりがいのある仕事をなし遂げて、今ほっとしているところであります。

振り返ってみますと、2つばかり、3つかな、申し上げたいことがあります。

1つは、最初のころ、この委員会の事前討議としてワークショップの手法を取り入れたことです。ワークショップというのは、ある種の賭の部分があつて、收拾がつかなくなる可能性が実はあるんですが、これは皆さん方の知恵の結集といひましようか、まことにうまくいったなど、模造紙に張られたポストイットの束を見ていたのを今、鮮やかに思い起しております。あのワークショップをベースにした議論で、心がほぐれていろんな発言がしやすくなったという雰囲気になったこともあるのでしようけれども、その後のこの委員会の議論に力を与えてくれたかなと、その意味で選択は間違つてなかつたという気がしております。それが1点です。

それから、初回のときに私が東日本大震災のことを取り上げまして、日本人に呼び覚ましたものが2つばかりあつて、それは共同体もしくはコミュニティー感覚である。と同時に、支え合うということの大切さを改めて我々に思い起こさせてくれたんだという趣旨のことを申し上げた記憶があります。

その後、仙台に行ったり、あちらこちらに行ったりして、お話を伺つたことを少しだけ語っておきたいと思ひます。これは仙台のことなのですが、今ちょっと具体的な数字を持つてくるのを忘れてましたが、震災が起きて地域の人たちが避難所となつた学校に押し寄せてくる。当然ですね。その際に、もともと地域との関係性のよかつた学校、例えば学校支援地域本部が非常にうまく日ごろから機能しているというところは、ほとんどトラブルがなかつたそうです。むしろ、避難した地域の人々がさまざま要求を声高に学校側にするところを、大手を広げて、「いやいや、先生方というのは、子どもを守るのと教育が第一なんだ。ここのところはおれたちが自主的運営、自治組織をつくつていろんな班をつくるから、やっつていこうよ。」などと、先生たちをかばうようなことを言つて、それが非常に後にスムーズな避難所の運営につながつていくというケースがあつたと。また、逆に言うと、日ごろ余りそういう関係性を構築できていなかつた学校では相当なトラブル、混乱に見舞われた時間が長かつたのでありまして、そここのところにも地域と学校との関係性というのが日ごろから問われているということがはっきりと表れたと言つていいんぢやうと思ひます。

それから、気仙沼か一宮か、ちょっと忘れてしまつたのですが、どちらかの市で、市を挙げてESD、「Education for Sustainable Development」ですね、持続可能な社会というものをテーマに掲げた教育を展開している学校がほとんどなんですけれども、ESDをやれば必然的に地域との関係性を考えざるを得なくなるし、そういう実践が展開されていく。それがやはり震災後の避難所であるとか、学校と子どもとの関係、もちろん保護者との関係であるとか地域との関係性において非常に威力を発揮したということ、こもごもと述べておられる話を聞きまして、や

はりここでも、また似たようなことを印象に持ちました。

それから、私どもの大学は昨年来、仙台市立の七北田小学校と研究連携の關係を持っております。日本でただ一つ地域共生科という教科を学習指導要領の枠を外れてつくって、3年間実績を積んできているところです。来年度も、さらに1年間、特例で続ける。その特例で続ける間に、翌年度に向けて教科ではないところで、どういう展開をして、さらにブラッシュアップをしていくかということの研究されるそうですけれども、要するに地域のことを知る、理解する、考える、発信する、貢献をしていくというのを全学年の子どもたち自身が展開をしていくんですけれども、これは必然的にコミュニティーとの關係性がなければでき得ないという授業なんです。

当初は地域が学校に協力をするというスタイルが濃厚だったんですが、そのうち、協働のスタイルに切りかわり、最後の最終年度は互惠關係、ウィン・ウインの關係ができ上がっていったということのようです。したがって、地域が学校をサポートする、学校が地域に発信するというのが裏表の關係で展開をされているという事実がありまして、これをさらに私どもの大学のほうで社會關係資本、ソーシャルキャピタルとの關係で分析を試みようじゃないかということで今、研究に着手しているところです。

それから、もう一点だけ、今後のことなんですけれども、坂野先生が言われたことをそのとおりだというふうに思いつつ、もう一点だけつけ加えさせていただければ、やはりここにでき上がったものは、あくまでもビジョンであります。ビジョンに沿ったアクションプランといいましょうか、実行計画というものがどう立てられ、どのように実行されていくか、どういう手段がとられるか、どういうロードマップになるのかということはとても大事なことになると思われるので、そこのところは杉並区教育委員会に期待をし、見守ってまいりたい。もちろん、こういうものをつくらうということをおっしゃっているわけですから、やる気がなければこういうものをつくらうという気にはならないわけで、安心はしておりますけれども、同時に期待をもち続けてまいりたいと思います。

私の感想はそれだけですが、今、一人委員がお見えになりました。今、感想を述べ合っておりますので、よろしくお願ひします。

○委員 本日、学年末の保護者会があり、遅くなりました。

1年間このビジョンにかかわらせていただきながら、今、委員長がおっしゃられたように、ここに書かれている言葉を踏まえながら、何がこれから学校でできるのかということ最近考えています。24年度の学校経営計画の中にも、ここに書いてある言葉を記述することだけではなく、ビジョンに示されたことを具体的な行動計画で示したいと考えています。

今回、私がここに出席させていただき、いち早くこのビジョンに触れ、それをどのように具体化したらよいか考えることができたことが、とてもありがたかったと思っております。

このビジョンに示された言葉については、パブリックコメントを読みましたが、よくわからないとか、具体性がないとか、いろいろなご意見があったように思います。その疑問にこたえるべく、具体的に説明をしていくのも、ビジョンの策定に関わらせていただいた私たちの使命かなと考えています。まず校長会そして地域の方々に自分の学校の職員にわかりやすく話をしていくこと、具体的に話をしていくことから始めたいと思います。

ありがとうございました。（拍手）

○委員長 吉田委員、玉山委員は、まだいらっしゃれないようですね。

○参事 申しわけありません、今ちょうどメモが入りまして、会議が長引き、間に合わないとのことですので、私からこの場をお借りして一言申し上げたいと思います。

ここに今日、管理職が座っていますけれども、この策定委員会をサポートするというので、5月に立ち上げた幹事会でございます。委員長はじめ委員の皆様のご期待に沿えなかったところはあると思います。いろいろ資料提供も不十分だったと思いますけれども、本日こういう形で最終案をまとめていただきまして、幹事会を代表して委員長、皆様のご尽力に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

それから、区議会が明日まで行われますが、来年度の予算や区の新しい基本構想、それからそれと整合をとって皆様でつくっていただいた教育ビジョンについて色々な審議があつて、各会派の代表から意見開陳ということで様々な意見をいただきました。私も聞いておりましたけれども、何人かの議員が、教育分野については、やはり教育ビジョンが今後できていって、24年度以降、住宅都市杉並区の内実を支えていく重要な位置づけとして機能していくということに非常に期待を持っているようでございますので、そういった議員からの期待もありましたということ、多分、吉田、玉山両委員から伝えたかったかなと思ひまして、ちょっと私から、かわりにご報告させていただきました。

本当にありがとうございました。

○庶務課長 では、そろそろ時間でございますので、終わりにしたいと思います。

この委員会は本当に議論を深めていただいて、方向性がよく見えて、なかなか素晴らしい委員会だなと、両先生の采配とともに、各委員の方は本当に活発に意見を言っていただいて大変ありがたく思いました。どうもありがとうございました。

では、最後に教育長から一言あいさつを申し上げたいと思います。

教育長、お願いします。

○教育長 どうもありがとうございました。この1年間、委員長を中心に各委員の方々には大変精力的な議論を繰り返していただきまして、本日、新しい杉並区の教育ビジョンをまとめていただきました。心から感謝を申し上げます。

「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」、私は杉並ならではこそ、杉並だから言える台詞だなというふうに、改めて受けとっております。といいますのは、既に各委員の方々からお話がありましたけれども、これまでやってきた杉並の教育環境整備を踏まえて、これからは、その上にさらに質の高い教育を展開していくことです。その質の高い教育を展開していくためには、学び合うこと、支え合うこと、そして教育そのものをみんなで作っていくんだという、この合意がなかったら、この台詞は言っていられないのが現状だろうと思います。

でも、私は逆の意味で、杉並だから今こういうことが全国に先駆けて発信できる、それだけの準備と意気込みを持っているというふうに受けとめさせていただきました。

先ほどから話が出ておりますが、明日まで第1回定例議会、予算審議を中心とした議会が行われることになっておりますが、この間、予算特別委員会、あるいは基本構想審議に関する特別委員会、そして本会議等において、これからの杉並の教育に大いに期待をするという意見が表明されております。

今日も、新しい教育ビジョンを受けて杉並の教育がさらに発展していくことを心から期待するという発言もございました。ぜひそういった声を受けとめて、区民の期待に応え、素晴らしい杉並の教育、先ほど〇〇委員から杉並で教育を受けることを誇りに思うという発言がございましたが、まさに杉並区民の期待の集約だろうと思います。そういったことを私どもは心から受けとめて、具体的にこの後、施策を展開していくこととなります。

これまでのご努力に深く感謝し、次は私どもの取り組みに、ぜひご理解とご支援を引き続きお願いを申し上げて、ごあいさつにかえさせていただきます。ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

そういえば、6回開いたこの委員会に教育長はすべてご出席されていたように記憶しているんですが、皆勤賞を差し上げないといけないと思いますけれども、いずれにしても無事終わることができて、皆様方のご協力のおかげだと考えております。

それでは、以上をもちまして教育ビジョン策定委員会を閉会いたします。

本当にありがとうございました。